

## 平成29年度第5回精華町社会教育委員会議 会議録

### ■日時

平成29年12月18日（月）午後3時から4時30分まで

### ■場所

精華町立図書館1階集会室

### ■出席委員

- ・清水 眞理子 ・田中 智美 ・上村 卓三 ・白畑 丈子 ・高鍋 房美
- ・福味 眞樹紅 ・吉川 博文 ・尾崎 麻由美 ・谷 譲二 ・堀内 保寛
- ・山下 博史

### ■出席事務局職員

- ・教育委員会教育長：太田 信
- ・教育委員会教育部長：岩崎 裕之
- ・教育委員会教育部生涯学習課長：仲村 大
- ・教育委員会教育部生涯学習課課長補佐：川畑 由香里

### ■傍聴者

なし

### ■内容

#### 【会議】

#### 1. 開会

#### 2. 委員長あいさつ

- ・先日長年の念願であった教育委員との交流会を開催し、有意義な時間を過ごした。教育委員の重要な職務について学ぶことができ、改めて社会教育委員として教育委員会に貢献したいと感じた。

### 3. 教育長あいさつ

- 1年間の活動に感謝する。この1年間は教職員の負担軽減が課題となった年であった。働き方改革が打ち出され、教員の負担をどのように軽減するかについて考えた。
- 本町でも教員の超過勤務時間について1か月調査を行ったところ、小学校では80時間を超え、中学校では100時間を超える結果となった。過労死ラインが60時間であることを考えると危険な状態である。
- 安全問題やいじめの問題が起こらないようになどの対策、教育法の変化に伴う教材の研究、学校に対する課題や苦情への対応などがある。
- 国の中央教育審議会から様々な提言がなされている。中学校の部活動への責任ある外部指導員を活用することでの負担軽減。児童の登下校指導から教職員が外れることなど。しかしその範囲については議論が必要である。
- 社会教育の側からすると学校活動の支援をしていただいているがどこまでを活動範囲とするのかも課題。
- 教育委員との交流会では互いの活動内容の理解につながった。次の段階では、社会教育委員と教育委員が教育の課題についてそれぞれどのように考えるのかといった意見交換や議論につながり、活動の活性化につながればと考えている。
- 学校給食基本構想について、精華町の中学校の給食の導入を見据えた中で作成をしたもの。精華町の給食の歴史やこれからの小学校給食の方向性と中学校給食導入の考え方をまとめたもの。議会に報告を終え、パブリックコメントを実施する。

### 4. 報告

#### (1) 精華町教育委員・社会教育委員の意見交換会について

##### 事務局

- 11月28日(火)、午後4時からむくのきセンターで実施。参加者、教育委員3名、社会教育委員8名参加。当日の概要について説明。

##### 【発言趣旨】

##### 田中委員長

- 当日出席の委員より、参加についての感想や意見を共有したい。

##### 清水委員

- 長年の念願であったが、時間が短かった。
- 教育委員の施設訪問について、どんな内容であったのか詳しく知りたかった。

##### 田中委員長

- 時間については意見のある委員も多いところかと思う。
- 次回につなげて、今後議論や意見交換を深めたいと考える。

### 上村委員

- 教育委員や他の職員のいる中で、活動内容について語る事ができたことについて感慨深い。
- 自分自身が関わっている「家族の絆」については活動に広がりがあり、参加児童も3,000人と増加している。社会教育委員の活動をしたおかげで、こういった広がりがあったと考えている。感謝している。
- 子どもの心の成長を、作文を通じて感じる事ができる。甲乙つけがたい作品ばかりだ。

### 田中委員長

- 家族の絆事業の広がりやその活動への尽力について敬意を表す。今年度2月4日に開催する発表会には、時間が許すなら是非足を運んでいただきたい。
- 子ども達の家族への思いに触れ、大人が思いもよらないことを感じていることを実感していただけたらと思う。

### 高鍋委員

- 意見交換をじっくりできなかつたが初回であったので顔合わせができた。
- 当日の資料の中で家庭教育、学校教育、社会教育の関わる時間について記載があったが、教育というのは関わった時からずっと続いて行ってほしいもの。卒業しても自分の関わった学校に誇りを感じながら生きるような教育があれば良い。
- 教職員の負担軽減の話が教育長の挨拶にあった。子ども達が教員はブラック企業だといっているのを聞いた。そう考える子どもが増えることで教員になりたい子どもが減るのではという危惧がある。報道の在り方に疑問を感じる。
- 教職員の負担が大きいことばかりが取りざたされるが、悪いイメージばかりが先行し、夢のある職業、仕事であることが子どもに伝わらないような報道は考えていかなければならないと考える。

### 事務局

- 国が進めようとしている働き方改革について、学校現場でどのように取り入れていくのか、議論を進めながら導入する必要がある。

### 山下委員

- 今の子ども達が教員になりたいという夢を持っていないかという、決してそうではない。まずは教員自身の意識改革が進まなければならない。やりがいがあって、楽しくて職を続けていることが伝われば、今発言されたような危惧は少ないかと考える。
- 今年度は働き方改革や教職員の負担軽減を様々な所で協議いただき、京都府のPTAで宣言文も出していただいた。社会教育を理解されたPTAの方が発言していただいたことに感謝している。
- 働き方改革は教職員の意識改革を含め徐々に考えていかなければならない。

#### 尾崎委員

- 教育委員の多くの仕事量について驚いた。多忙な中様々な活動をされているため、社会教育委員として役立てることができたらと感じた。

#### 谷委員

- 尾崎委員と同様教育委員の業務量や内容が多岐に及んでいることに驚いた。
- 教職員の負担軽減について、京都市立中学の先生と話す機会があった。来年から土日のどちらかと週1回は部活を休まなければならないことになった。部活のレベルの低下と、休日の生徒の行動について不安があると話していた。

#### 福味委員

- 子どもの部活が休みになると、意外と子どもは疲れを取るために休んでいて家にいるという話も聞く。

#### 吉川副委員長

- 顧問となる指導者が専門家ばかりではない。また、技術の向上だけでなく、生徒指導を含めた顧問を引き受ける意味合いもあり、様々な面がある。
- 教育委員との交流会の時間設定について、今回は教育委員の施設訪問の機会を利用しての実施であったため、今回短時間となったことについてはやむを得ない事情があった。教育委員と社会教育委員の仕事をお互いが知ることについて今回は意義があった。
- 交流会でアピールしたかったのは、教育委員の職務は社会教育を含んだものだということだ。また、PTAは社会教育団体、図書館は社会教育施設であるということなどをまず知ることが大切。
- また、どのような議題で話せば、協力し合えるかを検討することが必要。具体的に協議するテーマを決めて意見を出し合う必要がある。
- 教員の働き方改革の話題があったが、その時代によって世間の受け止め方は違っていた。ただし勤務時間の時間軸で言うと確かに長時間となっている。時間だけで図ることはできないが、まずは長時間勤務を縮小するという動きは必要な流れだと考える。ただし、長時間勤務であっても、保護者を含む、地域に支えられているという気持ちがあれば頑張っていこうという気持ちになる。時間と気持ちの問題のフォローが必要である。これは、教員だけではなく働く者に通じることだ。楽をしたいということではなく、互いに分かり合った中でフォローし合うということが必要。

#### 白畑委員

- 働く人だけでなく、労働者を支える家族も大変だと思う。

#### 高鍋委員

- 勤務時間だけではなく、仕事のやり方を見直せばいいのではないかと考える。ある学校で印刷だけを請け負うサポーターを置いたという事例を聞いた。それにより、先生の負担が減ったと聞いた。先生しかできない仕事に集中してもらえよう、仕事内容の見直しをしていただけたらと考える。

## 吉川副委員長

- 便利な時代になって更に業務量が増えたということもある。詳細な報告書や資料を何かにつけ求められ、そこに割く時間も大きい。

## 5. 議事

### (1) 平成29年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について

#### 【説明事項】

- 平成30年1月19日（金）午後2時から4時30分まで。出欠確認。
- 研修会のテーマについては昨年度と同様であるが、サブテーマについては、役員会で提案があったが、その理解に相当な説明が必要なものであるため、平易な言葉や理解が容易なテーマに変更するよう検討がされている。  
次期会議で再度の検討がされる予定であり、現段階ではサブテーマは未定である。
- 集合時間等については、サブテーマが決まり、案内が届き次第事務局より再度通知する。分科会の内容についても現段階で提示がないため、案内とともに希望を聴取する。

### (2) 平成29年度第3回子育てサポータースキルアップ講座

#### 【説明事項】

- 平成30年1月30日（火）午後1時から午後4時30分まで。出欠確認。

### (3) 精華町子ども祭りについて

#### 【説明事項】

- 10月21日（土）に開催し、1300人の参加を得た。11月に子ども祭り実行委員会を開催し反省を含めて実施した。
- 子ども祭り来場者アンケートと議会事務事業評価シートを資料とし説明。
- アンケートでは、概ね参加に係る高評価を得ており満足度の高い事業実施ができた。
- 改善要望は、乳児が遊べる自由スペースがほしい。駐車場が近くに欲しいなどの意見があった。
- 議会事務事業評価では廃止を含めた見直しが必要である等意見が出された。実行委員会で測ったところ、廃止の意向はなく、継続の意向確認ができたが、せいか祭りとの統合実施の検討など見直し案を次回実行委員会に提案することになった。
- 社会教育委員からも子ども祭り実行委員会に協力いただいていることから、情報の共有をさせていただいた。

**【発言趣旨】**

田中委員長

- 次回実行委員会の日程については決まっているか。

事務局

- 未定である。年度中に開催予定である。

(4) 次回委員会議

平成30年2月26日（月）午後1時30分～

※後に次回議事内容の検討の結果2月5日（月）開催に日程変更した。

4 閉会